



# 「日本一大きいハローワークである ハローワーク飯田橋で次長をされている岡田純子さんに ハローワークについて聞きました。」

ハローワークとは  
どのようなところか  
教えてください。



ハローワークでは、①仕事を探している求職者と必要な人材を確保したい企業を結びつける職業相談・職業紹介のほか、②仕事を探している方の生活をサポートする雇用保険の業務、③障害者や母子家庭の母親等の就職に困難な事情を抱える方の雇用を促進するための企業指導や、助成金等のご案内などの雇用対策業務を行っています。ハローワークではこれらの業務を一体的に実施することによって、雇用のセーフティネットとして中核的な役割を果たしています。

現在の  
職務内容について  
教えてください。



ハローワーク飯田橋で、障害者の方の職業紹介や企業への雇用指導などを行う部門の責任者として仕事をしています。障害者の方との相談を通して、その方が持つ働く力を活かして就職につなげる支援を行うとともに、障害者の方の雇用が進まない企業に対しては、障害者の方の雇用が難しいと考える要因となっていることを聞き出しながら、必要な指導や支援を行っています。

臨床心理学的な知見も活かしつつ、仕事を探している障害者の方と障害者を雇用する企業の間にとって、両面からアプローチするよう努めています。

ハローワークの  
魅力について  
教えてください。



ハローワークの業務は法制度の枠組みの中で実施されるものですが、ハローワークが支援するのは、生身の人間や企業であり、抱えている問題もハローワークに求めるサービス内容も実に様々です。このため、大局的な視点に立てば問題ないように見える制度であっても、ハローワークの現場で個々の求人・求職者を目の前にしてみると、「こういう場合を想定してあれば、支援の幅が広がるのになあ」、「この制度がもっとこうだったら便利だろうな」と思うことがあります。

厚生労働本省で企画・立案を行う際、日本の社会問題にどうアプローチしていくかを考えることは当然必要ですが、これだけでは不十分です。ハローワークの現場で業務を行ったことによって、厚生労働省が「対個人」を支援している機関であり、雇用に関する社会の問題はあくまでも個々の求職者や企業が抱える問題の集合体であると捉え直すことができました。

ハローワークの現場ではサービスを受ける利用者1人ひとりに対して、どうアプローチしていくかを考え、本省に戻ってからはそれを大きな社会システムにどう結び付けていくかを企画し、実施していくことができる。それが職業安定行政の難しさであると同時に大きな魅力であると感じています。

東京労働局 ハローワーク飯田橋 次長

おか だ じゅん こ  
岡田 純子

経歴

平成17年 厚生労働省入省  
平成18年 職業安定局 首席職業指導官室  
平成21年 職業安定局  
農山村雇用対策室 地域共同事業係長  
平成23年 職業安定局 ハローワークサービス推進室  
平成24年 職業能力開発局  
キャリア形成支援室 キャリアコンサルティング係長  
平成26年 現職





ほう じょう けん いち

職業安定局 雇用開発部 雇用開発企画課長

## 北條 憲一



### 経歴

昭和59年 労働省入省  
 昭和60年 総務庁 青少年対策本部 ～若者の生活志向調査、父子関係国際比較調査などの企画と実査を担当～  
 平成 2年 職業安定局 業務調整課 職業紹介係長 ～レディス・ハローワークの開設等を担当～  
 平成 4年 北海道労働局 ハローワーク釧路所長  
 平成18年 職業安定局 就労支援室長  
 ～ネットカフェ難民実態調査の実施、日比谷派遣村政府側対応、住居喪失不安定就労者に対する  
 就職安定資金制度の創設、生活保護受給者や刑務所出所者の就労支援事業を担当～  
 平成22年 職業安定局 首席職業指導官 ～ハローワークの職業相談業務の総責任者～  
 平成26年 現職(平成27年10月現在)

### Q1 厚生労働省の人間科学職の仕事とは 端的に言うとどのようなものでしょうか？

厚生労働省は医療・福祉・労働など「人」に関わる仕事を担当していますが、中でも人間科学職は、「人」のキャリアに関わる仕事を専門的に担当しているということができると思います。キャリアというのはもともと経歴という意味ですが、特に働くということを通じて社会の中でいかに自分の能力を活かし、幸せな生活を送れるかということが中心的なテーマになります。具体的には、キャリアコンサルティング、障害者や生活保護受給者の方などに対する就労支援、フリーターの正社員化やニートの自立などの若年者の問題、働く人の職業能力をどう評価してどうやればそれを伸ばせるかという課題などなど、幅広い仕事の領域があります。「人」のキャリアに関わる幅広い仕事を担当するということができるかと思っています。

### Q2 幅広い仕事の領域があるということですが、 具体的にどんな仕事をするのですか？

厚生労働省の人間科学職は、仕事の領域もそうですが、仕事の仕方も幅広いといえると思います。  
 仮に例えば障害者雇用問題の担当となつたとしましょうか。担当者は、常にハローワークや就労支援機関や企業などの現場の方々と情報交換をしたり、統計を分析したりして、現場で今何が問題になっているかを把握します。そうすると近年就職を希望する発達障害者が増えているが就職がうまくいっていないとか、就職しても職場への定着が難しいとか、企業側もどうやったら発達障害者を雇用できるかわからないという場合が多いとかの実態が把握できることでしょう。そこでどうすればよいか考えます。発達障害者や企業に対する相談支援体制をどうやったら充実できるだろうか、本人や企業に対して具体的にどんな支援や助言をしたら有効なのだろうか、本人が職場に定着するにはどのような能力が必要で、それをどのようにトレーニングすればよいのか、企業が使える雇用ノウハウ集や好事例集を作ったり助成金制度を作ったらどうだろうか、さらには法律を作って何か発達障害者の就労自立を促す制度を打ち立てられないだろうか……。課題の解決に向けて実にいるいろいろなアプローチがありますし、アイデアを出す余地が山ほどあります。そしてそれを実行し実現していくのです。これを政策立案といい中央官庁の仕事の醍醐味です。一人一人の国民に向き合って支えて

いく仕事も魅力的ですが、こういった大きな国の仕組みを作ったり改善していくことを通じて、多くの国民の幸福を実現していくという仕事ができるのが大きな魅力です。

### Q3 ほかにどんな仕事の領域がありますか？

厚生労働省の人間科学職の仕事の領域は政策立案だけではありません。制度というものは作って終わりということではなく、それをうまく運用してはじめて意味があります。就労支援、相談業務などの現場がうまく動くよう、現場担当者を指導していく業務もありますし、さらにはその業務を担う現場組織全体をどうやって活性化してパフォーマンスをあげるかというマネジメントの仕事もあります。

そのほか研究的な仕事もありますし、実際にカウンセラーとして窓口相談業務に就いたり、在外大使館や国際機関へ出向して国際業務に就くこともあります。

### Q4 厚生労働省の人間科学職ならではの業務の 魅力とはどのようなものなのでしょうか？

中央官庁の様々な職種の中には、分野にこだわらず法律や制度をつくっていく仕事もありますし、狭い特定分野に特化して特定の仕事のやり方を極めるという仕事もあります。これに対して厚生労働省の人間科学職は、「人」のキャリアという専門分野に対して、ただいま説明したような実に多様なアプローチでいろいろな仕事の経験ができるという点に特徴があると思います。人事配置は本人の希望と能力と適性に応じて行われますので、得意領域に配置されることが多くなった結果、その領域のエキスパートになっていく方もいますし、近年はそのようなエキスパートをさらに増やしていく方針です。多様な経験と専門性を兼ね備えた仕事ができるということは厚生労働省の人間科学職ならではの魅力ではないかと思っています。

### Q5 最後に、これから厚生労働省の人間科学職 を目指す方にメッセージをお願いします。

厚生労働省の人間科学職は専門性を活かしながら幅広くいろいろな仕事ができる魅力的な職種です。そして困っている人を助ける、誰かの役に立てるといった実感もやりがいがあります。是非応募をお待ちしています。